

千河岸櫻所 （以心） 著述家。嘉永元年（二月）生れ、昭和五年（二月）歿（一八四一—一九三〇）。本名貫一。筆名櫻所十、櫻所居士、櫻所逸士、江東の處士。『東京自由新聞』、『大阪日報』を経る。明治十九年朝日新聞社東京支店通信主任（のち大阪通信主任兼務）となる。

著書 『問對畧記』—明治九年十月廿六日飛雲閣ニ於テ島地渥美赤松ノ二氏佛國學士ユシールギメ氏ト問答ノ畧記（附・教義答答）四（本名、無刊記）、『教義論理今體文章機要正編』全二冊、同『外編』全二冊（同、編選、明治十一年四月—二十二年版權再許・六月刊、大阪・寶文軒藏）、

『日本志』全編一（名簡身規範）全二冊（同、明治十二年四月、第三篇一全二冊・十五年六月、再刊『日本志』全編『二十二年九月十四日大阪吉岡平助・前川善兵衛刊）、『佛教婦女修身の心得』（明治二十四年五月）

二十一年京都・興教書院）、『俗談辭林』（纂釋、明治二十四年十一月）二十二年青木嵩山堂）、『文訓評釋』（同、明治二十五年一月四日博文館）、『日本女子志』全二冊（本名、編撰、上巻・明治二十五年四月十四日、下巻・五月二日博文館）、『武田耕雲齋』（明治二十六年六月二日青木嵩山堂）、

『作文撰説格三辭典』（明治二十八年二月—十一月）博文館）、『日本武士氣貫』（櫻所十名、纂評、明治四十一年五月）二十二年新公論社）、『徳川時代の文學』（明治四十一年七月十日）

五）青木嵩山堂）、『先哲百家傳』（明治四十二年一月—二十五

日、『續先哲名家傳』（二月）青木嵩山堂）、

『修養史譚』（本名、

『唐宗節義家傳』千河岸貫一著



名、明治四十二年六月四日丙午出版社）、『唐宗節



義家傳』(同、纂譯、明治四十四年一月十五日高山堂)等。

二輪義家藏編『日本と其の編字引』(校題、明治十五年六月十九日版權免
許。七月序、大阪西平助・前川善吉共衛出版)刊。

